大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

第7回「高校生起業家教育講座」活動報告書

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017527

第7回 大阪府立大学 Fledge

「高校生起業家教育講座」

大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY　大阪府　SoftBank　日本政策金融公庫 JAPAN FINANCE CORPORATION　JPX JAPAN EXCHANGE GROUP　NOMURA

活動報告書

2021 年 10 月

大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

高度人材育成センター

社 会 連 携 課

目　次

はじめに 1

１．本学「高校生起業家教育講座」の目的　～より良い未来社会創造のために～ 2

２．運営方法について 3

　２－１．オンライン運営の継続 3

　２－２．開催形式 3

　２－３．本学及び連携・協力機関担当者 4

３．テーマ設定とプログラム内容 4

　３－１．テーマ「私たちが住みたい街にあってほしいモノ／コト」 4

　３－２．プログラム内容 5

４．広報・募集活動 5

５．申込者数・受講者数 6

６．活動状況について 7

　６－１．グループ編成 7

　６　－２　活動内容 9

おわりに 14

大阪府立大学「第 7 回高校生起業家教育講座」受講生アンケート集計結果報告 15

はじめに

「科学技術基本法」が 25 年振りに本格改正され、第 5 期までの「科学技術基本計画」は 2021 年度から「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」（以下「第 6 期基本計画」という。）に改称され、新たにスタートした。

「第 6 期基本計画」は、自然科学と人文・社会科学を融合した「総合知」の創出・活用により、「第 5 期科学技術基本計画」で提起された経済発展と社会課題解決を両立する超スマート社会「Society 5.0」の実現を目指すことにしており、その柱のひとつに「イノベーションの創出」を掲げている。

我が国の科学技術の国家戦略が「イノベーションの創出」を標榜する政策へと大きく舵を切る「第 6 期基本計画」では、「Society 5.0」及び国連の「Sustainable Development Goals (SDGs)」で描く未来社会像をバックキャスティングで具現化していくために「トランスフォーマティブ・イノベーション[1]」の概念により、強靭で持続可能な社会へのソリューションを提供することが必要であるとしており、それを支える人材として「自ら課題を発見し、解決手法を模索する探求的能力・資質が重要」で、初等中等教育の段階から課題に立ち向かう探求力の強化が必要であると指摘している。

本学「高校生起業家教育講座」は 2015 年度の第 1 回開始当初からこの「より良い未来社会を創造するイノベーションの創出」をテーマに、高校生が「答えのないものに挑戦し、自ら解を導き出していく」力を育み、創造性、チャレンジ精神、粘り強さ、問題解決能力、そして自信（自己肯定感）の養成と人材育成に取り組んできた。

今回開催した「第 7 回高校生起業家教育講座」では 13 校 24 名の高校生が参加し、3 日間の日程の中、ビジネスアイデア創出に必要な様々なプロセス・思考法を学びながらグループワークによるブレインストーミングを重ね、①地域社会の活性化、②日本が誇るサブカルチャーの情報発信ーをテーマに「Z 世代」らしいイノベーティブなビジネスアイデアを創出した。

また、新型コロナウイルスのデルタ株の蔓延で感染者数が急増した第 5 波の影響を受け、やむなく 2 年続けてオンラインで運営することを決定し、3 日間のプログラム全てを終日オンラインで実施した。そうしたハードなスケジュールの中で全日程の最終プログラムまで参加した高校生達のチャレンジ精神と起業家精神を改めて讃えたい。

また、今回の講座開催にあたって、連携４社（ソフトバンク株式会社、株式会社日本政策金融公庫、株式会社日本取引所グループ、野村ホールディングス株式会社）のご担当者には各社講義セッションのプログラムの制作と講義で多大なるご協力をいただいた。改めて御礼申し上げたい。

さらに、寄附支援で本講座の運営面を支えていただいている株式会社甲南アセットの小林宏至社長（本学工学部 OB）のご厚情に対して、この場を借りて改めて感謝申し上げる。

[1] 地球環境問題などの複雑で広範な社会課題に対応するため、社会の変革を志向するもの。

１．本学「高校生起業家教育講座」の目的　～より良い未来社会創造のために～

2015 年 9 月の国連サミットにおいて、「我々の世界を変革する－持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」と、そこに示された「Sustainable Development Goals（SDGs：持続可能な開発目標）」が 193 の国連加盟国全会一致で採択された。SDGs は 2016 年から 2030 年までに達成する 17 の開発目標、その目標に取り組むための 169 のターゲット、232 の指標で構成され、地球環境問題や貧困、格差、食糧問題、エネルギー問題など地球上に存在する数多くの社会的課題を解決し、持続可能な社会の実現に向け国際社会が一体となって取り組んでいくことが確認された。

出所：国連広報センター

我が国においても、内閣に設置した「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を司令塔に SDGs の目標達成に取り組んでいる。同本部が策定する「SDGs アクションプラン」では、「日本の SDGs モデル」のひとつに「SDGs に連動する『Society5.0』の推進」を掲げ、先端技術で様々な社会的課題を解決することで、人々が世代や地域を超えて豊かで快適に暮らせるスマートな未来社会「Society5.0」を実現することを目指している。

出所：政府広報

本講座では、「起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）」や「起業家的資質・能力（社会的課題の発見・解決力、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）」を身に付け、SDGs や Society5.0 等で目指す「より良い未来社会」の創造を担う次代の主役として、起業家的主体性を持った行動ができるイノベーション人材を育成することを目的とする。

２．運営方法について

２－１．オンライン運営の継続

大阪府立大学「高校生起業家教育講座」は 2015 年度の第 1 回目の開催から 2019 年度の第 5 回開催まで大阪市内の会場に 40 名前後の高校生が集まり、数日間の日程で本学及び連携各社の講師による講義とグループワーク演習、プレゼンテーションを行うプログラムを実施してきた。

ところが、2019 年 12 月に中国武漢市で発生したとされる新型コロナウイルス感染症の猛威が瞬く間に国境を超えて世界中に蔓延し、3 月には WHO（世界保健機関）がパンデミック（世界的大流行）を宣言。国内においても緊急事態宣言が発出される事態へと状況が深刻化し、感染者数が全国で急増していく中、学校教育現場の休業要請まで影響が拡大し授業期間及び夏休み期間の大幅な短縮を余儀なくされた。

こうした状況を踏まえ、2020 年度の「高校生起業家教育講座」は初めて対面形式での開催を見送ることを決定した。ただ、ここで開催中止という判断を下すのではなく、オンライン形式で開催を継続することを選択。新型コロナウイルス感染拡大がもたらした歴史的な社会環境の変化を目の当たりにする中、「持続可能な社会」の在り方について高校生達に問い、考える場として位置付けることにした。

2021 年度においても、新型コロナウイルスの感染状況の見通しが全く不透明なまま感染拡大の第 3 波、第 4 波と 2 回の緊急事態宣言の発出を繰り返し、続く第 5 波では変異株（デルタ株）の猛威で感染者数が 6 月下中頃から加速度的に急増した。このため、2021 年度の「高校生起業家教育講座」についても、感染拡大防止と受講生の健康・安全を最優先に全日程をオンラインで開催することを決定。2020 年度のオンライン開催で培った運営方法をベースに新たな運営方法を導入し、ビデオ会議システム「Zoom」を利用して 8 月 2 日（月）3 日（火）及び 6 日（金）の 3 日間の日程で開催することにした。

２－２．開催形式

講 座 名　大阪府立大学「第 7 回高校生起業家教育講座」（オンライン講座）
主　　催　大阪府立大学
共　　催　大阪府、ソフトバンク株式会社、株式会社日本政策金融公庫、
　　株式会社日本取引所グループ（JPX）、野村ホールディングス株式会社
協　　力　一般社団法人関西ニュービジネス協議会
特別協力　株式会社甲南アセット
後　　援　近畿経済産業局、公益財団法人大阪産業局、
　　大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム、大阪商工会議所、
　　公益社団法人 関西経済連合会、一般社団法人 関西経済同友会、
　　日本証券業協会大阪地区協会

２－３．本学及び連携・協力機関担当者

（敬称略）

企業・団体名	担　当	担　当　者
大阪府立大学	全体統括	副学長・高度人材育成センター長 高等教育推進機構　教授　松井利之
	統　括	高度人材育成センター　特認教授　広瀬　正
	主担当講師	高度人材育成センター　特認助教　林　宣伶
	講　師	高度人材育成センター　統括コーディネーター 柳　淳也
	運営事務担当	高度人材育成センター　専門役　池内優子
		同　専門役　田村由紀子
		同　野里直子
		同　松本実佳
		学術研究支援部 社会連携課　係長　吉田晴香
		同　専門役　高坂泰司
大阪府	連携機関担当	商工労働部　商業・サービス産業課 新事業創造グループ　島田英幸
ソフトバンク	連携機関担当	人事本部　人材開発部　人材開発１課　妻沼考征
日本政策金融公庫	連携機関担当	大阪創業支援センター所長　石原達志
		同　上席所長代理　高橋庸輔
		同　所長代理　藤田竜太朗
日本取引所グループ（JPX）	連携機関担当	東京証券取引所 金融リテラシーサポート部 課長 森元憲介
		同　課長　斎藤史貴
野村ホールディングス	連携機関担当	ＥＳＧ推進室　佐藤由紀
		同　酒井賢一
関西ニュービジネス協議会	協力機関担当	事務局長　大賀潤子
甲南アセット	寄附支援	代表取締役　小林宏至

３．テーマ設定とプログラム内容

３－１．テーマ「私たちが住みたい街にあってほしいモノ／コト」

「第 7 回高校生起業家教育講座」では、従来取り組んできたテーマ「より良い未来社会の創造」をより身近な自分事として捉え、自分たちの生活環境や地域社会における課題からビジネスアイデアを創出していくことを今回の主眼とするため、テーマを「私たちが住みたい街にあってほしいモノ／コト」に設定。地域社会活性化のために必要な課題から導き出すアイデアを「モノ／コト」の視点で柔軟に考えさせ、アウトプットまで完結させる。

３－２．プログラム内容

テーマ「私たちが住みたい街にあってほしいモノ／コト」でビジネスアイデアを創出するために必要な思考方法やプロセスをグループワーク中心に学びとしてインプットさせる講義運営とした。具体的には①チームビルディング②デザイン思考③システム思考④2×2⑤親和図⑥Insight⑦強制連想法⑧価値連鎖分析⑨プロトタイピング⑩プレゼンテーションーといったプログラム内容について、ホワイトボードアプリ「miro」の付箋機能を利用した思考整理法を取り入れ、グループ演習を実施する中でインプットとアウトプットを繰り返しながら習得させる指導方法を実践した。

また、連携機関 4 社による講義を各プロセスの間に組み込み、ビジネスアイデアを創出する過程において、企業による実践的スキルや知識をインプットすることで思考の幅を拡げる効果を機能させた。連携各社の講義（演習）テーマは以下のとおり。

連携機関	講義・演習テーマ
日本政策金融公庫	講義「ビジネスアイデア創出を学ぼう」 演習「価値創造型の発想法で新たなビジネスアイデアを考えてみよう！」
野村ホールディングス	講義「ビジネスと社会責任」
東京証券取引所	講義「マーケットという『場所』とアイデアの『実行』」
ソフトバンク	講義及び演習「明日から使えるプレゼン研修」

４．広報・募集活動

(1)募集要項の作成と広報・募集活動の開始

以下の広報用フライヤーを作成し、広報・募集活動を 6 月から開始した。

(2)広報・募集活動の実施内容

① 参加実績校等への案内（DM）

② 本学ホームページ掲載

③ 大阪府（商工労働部）より大阪府立高等学校への周知（学校長宛ご案内）及び大阪府内私立高校 BOX への広報チラシ配布

④ 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）小中高向けメールマガジン「JST 理系大好き NEWS」での配信

⑤ 大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム会員向けメールマガジンでの配信

５．申込者数・受講者数

3 日間全プログラムへの出席を必須条件に募集した結果、定員：40 名に対して 13 校・26 名の申込みがあり、13 校・24 名が受講した。

◎　**参加高校別申込者数及び受講者数の内訳（カッコ内が受講者数　＊は新規参加校）**

	学校名	1 年	2 年	3 年	合計	男子	女子	合計
1	大阪教育大学附属高校平野校舎	7(7)			7(7)	3(3)	4(4)	7(7)
2	＊大阪府立茨木高校		1(1)		1(1)		1(1)	1(1)
3	大阪府立北野高校		2(1)		2(1)	1(0)	1(1)	2(1)
4	大阪府立高津高校	2(2)	1(0)		3(2)	1(1)	2(1)	3(2)
5	大阪府立豊中高校能勢分校	1(1)			1(1)	1(1)		1(1)
6	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校			2(2)	2(2)	2(2)		2(2)
7	大阪市立西高校			1(1)	1(1)	1(1)		1(1)
8	＊大阪桐蔭高校		1(1)		1(1)	1(1)		1(1)
9	関西学院千里国際高等部	1(1)	1(1)		2(2)	1(1)	1(1)	2(2)
10	清風南海高校	2(1)		1(1)	3(3)	1(1)	2(2)	3(3)
11	帝塚山学院高校		1(1)		1(1)		1(1)	1(1)
12	明星高校		1(1)		1(1)	1(1)		1(1)
13	東京韓国学校		1(1)		1(1)	1(1)		1(1)
	合計	13(13)	9(7)	4(4)	26(24)	14(13)	12(11)	26(24)

【参考データ①】参加校数・申込者数・受講者数の推移

	第 1 回 (2015)	第 2 回 (2016)	第 3 回 (2017)	第 4 回 (2018)	第 5 回 (2019)	第 6 回 (2020)	第 7 回 (2021)
参加校数	3	10	9	9	18	10	13
申込者数	8	25	32	45	45	43	26
受講者数	6	25	30	44	44	34	24

※ 第 6 回・第 7 回はオンライン開催

【参考データ②】参加高校別受講者数の推移

通算延べ 26 校：207 名の高校生が受講

学　校　名		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	合計
1	大阪教育大学附属高校平野校舎	2	3	5	6	3	4	7	30
2	大阪府立市岡高校		1						1
3	大阪府立茨木高校							1	1
4	大阪府立岸和田高校					1			1
5	大阪府立北野高校			2	2			1	5
6	大阪府立高津高校					16	7	2	25
7	大阪府立豊中高校		2	3	6	1		1	13
8	大阪府立三国丘高校		10	4	6		11		31
9	大阪府立夕陽丘高校		2	1	2	1			6
10	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校	2		3	3	2		2	12
11	大阪市立西高校		2	6	3	4	2	1	18
12	大阪市立淀商業高校		1						1
13	大阪高校					1	2		3
14	大阪星光学院高校					1			1
15	大阪桐蔭高校							1	1
16	関西学院千里国際高等部		1			4		2	7
17	関西大学高等部					1	2		3
18	清風高校					1			1
19	清風南海高校		1	1	1	1	1	3	8
20	高槻高校			5	15	2	2		24
21	帝塚山学院高校					1		1	2
22	初芝富田林高校					1			1
23	明星高校					2	2	1	5
24	大阪府立大学工業高等専門学校	2	2			1			5
25	長野県大町岳陽高等学校						1		1
26	東京韓国学校							1	1
合　計		6	25	30	44	44	34	24	207

※　第 6 回・7 回はオンライン開催

６．活動状況について

６－１．グループ編成

本学「高校生起業家教育講座」では、全てのプログラムにおいてグループワークによる

演習をメインに実践している。これは、他校生徒間の異なる価値観・視点による意見を交わす多様なブレインストーミングが可能となり、①課題発見からビジネスアイデアの創出の過程において、多面的な発想や考察を行うことができる、②新たな自己発見につながり、自己肯定感を醸成することができる、③コミュニケーション能力を養成することができる、④他校生との交流を図ることで新たな人的ネットワークを拡げることができるーといった利点がある。

今回は、24 名の参加者を以下の 5 チームに編成した。

チーム名	メンバー			
	学校名		学年	男・女
Team Only1	1	大阪教育大学付属高校平野校舎	1 年	女子
	2	大阪教育大学付属高校平野校舎	1 年	男子
	3	大阪府立豊中高校能勢分校	1 年	男子
	4	大阪桐蔭高校	2 年	男子
	5	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校	3 年	男子
じゃらん	1	大阪府立高津高校	1 年	男子
	2	大阪教育大学附属高校平野校舎	1 年	女子
	3	大阪教育大学附属高校平野校舎	1 年	男子
	4	大阪府立茨木高校	2 年	女子
	5	帝塚山学院高校	2 年	女子
Ichigo	1	大阪教育大学附属高校平野校舎	1 年	女子
	2	関西学院千里国際高等部	1 年	男子
	3	清風南海高校	1 年	女子
	4	関西学院千里国際高等部	2 年	女子
	5	清風南海高校	3 年	男子
きつねうどん	1	大阪教育大学附属高校平野校舎	1 年	女子
	2	清風南海高校	1 年	女子
	3	明星高等学校	2 年	男子
	4	大阪市立西高等学校	3 年	男子
あさなが	1	大阪教育大学附属高校平野校舎	1 年	男子
	2	大阪府立高津高校	1 年	女子
	3	大阪府立北野高校	2 年	女子
	4	東京韓国学校	2 年	男子
	5	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校	3 年	男子

６－２　活動内容

「第 7 回高校生起業家教育講座」では、本学高度人材育成センター特認助教　林宣怜が、3 日間の日程において「課題設定～課題解決のアイデア創出のための思考法～アウトプットのための連想・価値分析法～アウトプットの作成～プレゼンテーション」に至る体系的プログラムを立案し、グループワークによる演習を多用しながら実践した。グループワークでは、ホワイトボードアプリ「miro」の付箋機能を活用、Zoom ブレイクアウトルーム内でも付箋による思考整理が可能となり、各チームのブレインストーミングが円滑に進められるようにした。

また、各日程におけるプロセスの過程において、連携 4 社各社の講義形式によるプログラムを導入し、①ビジネスアイデア創出の視点②CSR(企業の社会的責任)・ESG（環境・社会・企業統治）投資・SDGs（持続可能な開発目標）③株式会社と株式・資本市場の機能④プレゼンテーション資料作成のポイントーについてそれぞれ現場のプロフェッショナルな視点に立った情報を提供することで、アイデア創出の視野の拡大とスキルアップを図った。

※ 講師敬称略

■DAY１：8 月 2 日（月）9：30～11：50　12：50～16：30

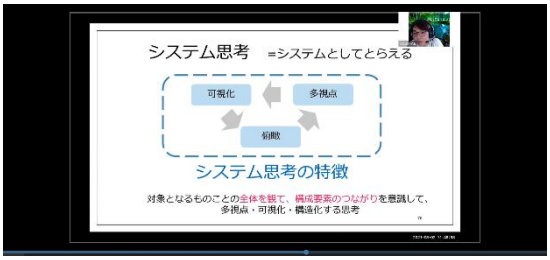
講　　師：大阪府立大学　高度人材育成センター　特認助教　林　宣怜
大阪府立大学　高度人材育成センター　統括コーディネーター　柳　淳也
株式会社日本政策金融公庫　大阪創業支援センター　上席所長代理
髙橋　庸輔

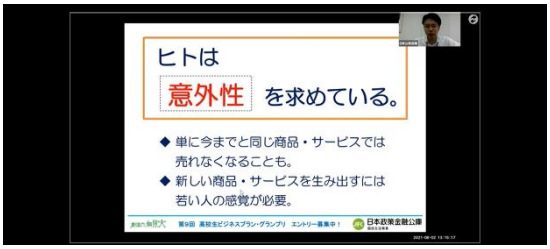
受講者数：午前 23 名　午後 23 名

内　　容：課題テーマ「住みたい街にあってほしいモノ/コト」の趣旨とデザイン思考法・システム思考法によるアイデア創出及び「集合知」を高めるブレインストーミングの進め方と自由連想法について説明した。続いて 5 チームにグループ分けした後、「2×2」マトリックスによる情報整理法を用いて、各チームでアイデア創出のブレインストーミングを行い、その内容をプレゼン。さらに、親和図法（KJ 法）で情報の集約化を行い、キーワードを軸にアイデアをより具体的にイメージさせ、プレゼンした。最後に、Insight（消費者が無意識に持つニーズ・嗜好等）分析によるアイデアのブラッシュアップについて説明した。

【企業講義①】日本政策金融公庫

講義「ビジネスアイデア創出を学ぼう」とワーク「価値創造型の発想法で新たなビジネスアイデアを考えてみよう！」を実施。「ビジネスアイデア創出を学ぼう」では、ビジネスアイデア創出で重要な①意外性②価値③ターゲットの三つのキーワードを説明し、「価値創造型の発想法で新たなビジネスアイデアを考えてみよう！」のワークでは、「世の中を変える新商品を創れ！」のテーマで各チームにビジネスアイデアを創出させ、プレゼンさせた。





■DAY2：8 月 3 日（火）　9：30～11：55　12：55～16：30

講　　師：大阪府立大学　高度人材育成センター　特認助教　林　宣怜
大阪府立大学　高度人材育成センター　統括コーディネーター　柳　淳也
野村ホールディングス株式会社　ＥＳＧ推進室　佐藤　由紀
東京証券取引所　金融リテラシーサポート部　課長　森元　憲介

受講者数：午前 24 名　午後 23 名

内　　容：DAY１で創出したアイデアに対する問題定義で課題や目的を明確にするとともに、関連性のないアイデアとアイデアを強制的に関連付ける強制連想法でアイデアの深耕を図り、各チームの深耕内容をプレゼン。さらに、各チームのアイデアにおけるペルソナ（顧客像）を想定し、ペルソナに対する価値連鎖（バリューチェーン）分析を行うことでアイデアをさらに具体化させ、各チームのアイデアの詳細をプレゼンした。
最後に仮のビジネスモデルで検証・改善を行うプロトタイピングについて説明した。

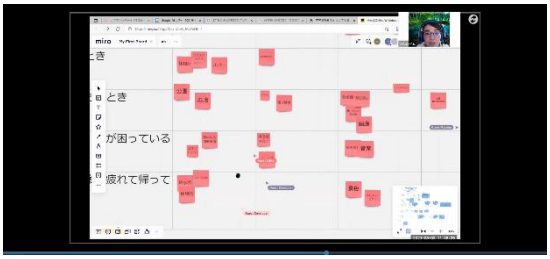
【企業講義②】野村ホールディングス

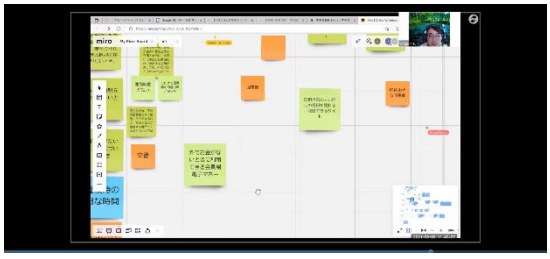
講義「ビジネスと社会責任」。気候変動や国連の SDGｓ（持続可能な開発目標）に対する企業の取り組み姿勢が企業価値に影響を及ぼし始めた現状における CSR（企業の社会的責任）の位置づけ、そして企業の ESG（環境・社会・企業統治）を投資判断基準とする ESG 投資、企業活動における SDGｓと SDGｓウォッシュ（表面的 SDGs）について、企業活動による森林破壊やプラスチックゴミ問題などの事例を示しながら講義した。

【企業講義③】日本取引所グループ（東京証券取引所）

株式会社と株式市場の機能及び資本市場からの資金調達のメカニズムについて解説した。そして、「生きる力」として、「稼ぐ力」「使う力」「投資する力」の三要素を挙げながら株式会社及び株式・資本市場の力（エネルギー）が経済活動や我々の社会の原動力にな

っていることを説明した。





■DAY3：8 月 6 日（金）　9：30～12：20　13：20～16：30

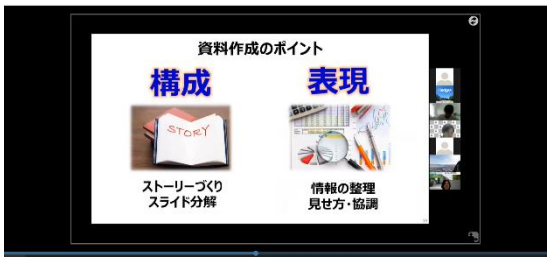
講　　師：大阪府立大学　高度人材育成センター　特認助教　林　宣怜
大阪府立大学　高度人材育成センター　統括コーディネーター　柳　淳也
ソフトバンク株式会社　人事本部　人材開発部　人材開発 1 課　妻沼考征

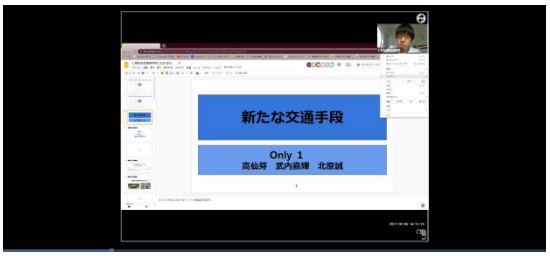
受講者数：午前 22 名　午後 22 名

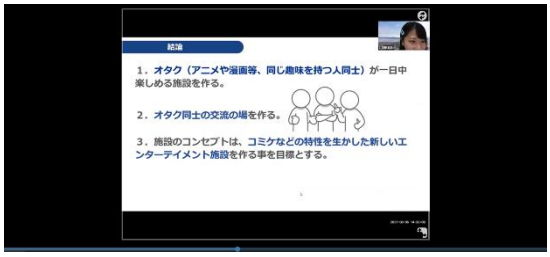
内　　容：ソフトバンクによる講義「明日から使えるプレゼン研修」でプレゼンテーション資料作成に必要な視点と構成・効果的表現・レイアウトについてレクチャー及びワークを実施した後、各グループで Google スライドを利用してプレゼンテーション資料を作成した。資料完成後、各グループでまとめたビジネスアイデアを発表し、講師陣がコメントした。最後に受講生及び講師陣で全日程の全体振り返りを行った。

【企業講義④】ソフトバンク株式会社

講義・ワーク「明日から使えるプレゼン研修」。プレゼン資料作成の目的は「相手に対していかに分かりやすく明確に伝え、相手に行動させること」であり、その要素として「構成」「目的」「内容」「順序」が重要であること。また、相手が知りたい要素である「結論」「根拠」「相手の利益」を入れてストーリーを構成することも重要であると解説した。ソフトバンクの自社プレゼン資料を参考例として示しながら、文字量をできるだけ減らしてグラフや図表で表現することで相手に分かりやすく明確に伝えることができることを紹介した。続いてグループワークとして、各チームのアイデアについて、プレゼン資料の構成・ストーリーを検討させ、最終的に Google スライドを利用してプレゼンテーション資料を作成した。







◎ 各チームの最終発表内容

チーム名	テーマ	内　容
あさなが	キッチンカーで地域活性化 ～ソトとウチがひとつになる地域コミュニティ～	◎課題：地域活性化 地域住民の交流促進と地域コミュニティの形成を目的にキッチンカーによるイベントを開催する。目的の場所に移動が容易なキッチンカーを利用して様々な場所で定期的にイベントを開催し、地元住民の交流の場を設ける。地元の食材等による料理・飲み物を提供する。地域コミュニティ形成による地域活性化で過疎化の抑制と人口流入につなげる。
Team Only1	地方における新たな移動手段の提供	◎課題：地方における移動サービスの低下 交通機関の運行が極めて少ない地方における移動サービスとして①タクシー②自転車による新サービスを提供。タクシーは高齢者の移動（通院・買物等）サービスとして①定額継続利用（サブスクリプション）②期間・回数限定の利用方法を選択できる。 自転車は若者を対象に、1 台に複数乗ることが可能なタンデム自転車

		のレンタルサービスを提供。料金体系は1台当たりの料金（乗車人数で割り勘が可）と利用時間無制限（追加料金不要)。安価な料金で会話を楽しみながら自転車移動ができる。
じゃらん	オタク文化の活性化	◎課題：コミケ活動の普及促進 年 2 回、東京でしか開催されないコミケ（コミックマーケット：漫画・アニメ・ゲームのファン同人誌の展示即売会）を身近で小規模開催できる施設を設け、コミケ参加者の増加傾向で拡大するオタクの交流とオタク文化のオープン化を促進する。
Ichigo	「MUGEN」地域創生 with アート～集え芸術家！集まれ観光客！～	◎課題：地域活性化 地域活性化を芸術（ストリートアート）の力で解決する。街を活性化したいストリートアーティストとストリートアートで街を活性化したい商店街や個人店主、地方自治体等をマッチングさせるマッチングサービスの提供。ストリートアートで街全体のイメージを再生し、新たな観光スポットとして観光客を呼び込む。将来的にはストリートアートのコンテストを開催することで、各地域の知名度を高めていく。
きつねうどん	ちょっとお昼寝しませんか？	◎課題：睡眠不足の解消 日本人の平均睡眠時間は 7 時間 43 分と世界で 28 位のレベル。日本人の睡眠不足を解消するため、①脳の疲労回復②心身のリラックス③集中力向上等の効果がある昼寝のスペースを社会人と学生を対象に提供する。三菱地所が仮眠制度を導入し、生産性の向上を実現するなどの実例がある。オフィス街等で空いているスペースを有効活用した昼寝スペースをワンコイン（100 円・500 円）で利用できる。家具販売会社に昼寝スペースを提供し、利用者が睡眠用家具を体験することで家具の販促にもつなげる。

◎ 出席回数分布状況

8 月 2 日（月）3 日（火）6 日（金）各午前・午後 1 回＝全 6 回

回　数	人　数	構成比（%）
6 回	21	87.5
5 回	1	4.2
4 回	1	4.2
2 回	1	4.2
1 回	0	0.0
0 回	0	0.0

＊四捨五入の関係で構成比の合計値は 100 にならない。

＊4 回以上の出席者 23 名に「修了証」を交付した。

おわりに

2021 年 5 月 26 日、米国の巨大石油メジャー「エクソンモービル」の株主総会で起こった歴史的な出来事がエネルギー業界に衝撃を与えた。もの言う株主で環境派投資ファンド「エンジンナンバーワン」がエクソンモービルの環境対策の遅れを指摘し、気候変動対策を求める 4 名の取締役候補をエンジンナンバーワンが推薦、うち 3 名の取締役が選任された。

エンジンナンバーワンが保有するエクソンモービルの株式はわずか 0.02%。巨大資本であるエクソンモービルが取締役候補の選任に反対する中、多くの株主がエンジンナンバーワンの環境重視の姿勢に賛同する極めて異例の結果となり、米有力紙「ウォールストリート・ジャーナル」は「石油の巨人の歴史的な敗北」と伝えた。

いま、二つの「X」が世界中を席巻し始めている。一つは、5G（第 5 世代高速通信規格）、AI（人工知能）等の先端デジタル技術の社会実装で行政サービスの刷新や地域・社会課題の解決、事業モデルの変革を促す「デジタルトランスフォーメーション（DX)」、そしてもう一つは、温室効果ガスを発生させないグリーンエネルギー（再生可能エネルギー）に転換することで産業構造や社会経済を変革し、成長につなげる「グリーントランスフォーメーション（GX)」である。

「GX」の背景には、気候変動問題を念頭に各国で具体的に打ち出されてきた「カーボンニュートラル」の動向がある。再生可能エネルギーへの転換と森林・海洋への自然吸収等で二酸化炭素（CO_2）の排出量実質ゼロを目指す「カーボンニュートラル」は、我が国においても、2020 年 10 月、菅首相が 2050 年までに CO_2 排出量実質ゼロを目指す「2050 カーボンニュートラル」を宣言。これを受けて、経済産業省が日本の「GX」となる「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定した。

「DX」「GX」の世界的な潮流は、地球的規模で人類が新たな未来社会を開拓していく道筋として後戻りできない不可逆的なうねりとなっている。その中で、これから様々なパラダイムシフトが起こることが予想され、そうしたパラダイムシフトを担う人材やスタートアップがゲームチェンジャーとして求められてくるのは確かである。

来年 2022 年 4 月、本学と大阪市立大学が統合し、新大学「大阪公立大学」が誕生する。その「大阪公立大学」では、産学官が協創して社会課題に取り組む人材やスタートアップを育成する拠点を目指す「イノベーションアカデミー構想」を掲げている。

2020 年度の「高校生起業家教育講座」も大阪公立大学主催による第 1 回目の講座としてスタートすることになり、「イノベーションアカデミー構想」の理念を基盤に、イノベーション人材の育成の一翼を担う活動として機能強化を図ることになろう。

引き続き連携機関との産（金）官学体制を維持・強化しながら起業家教育のエコシステムを形成し、生まれた時からデジタル生活に親しみ、社会課題に対する意識が高いとされる「Z 世代」の高校生の中からイノベーションの力で未来社会の突破口を切り拓き、未来予想図を描いていく多くの人材を育成していきたい。

【参考資料】

大阪府立大学「第 7 回高校生起業家教育講座」受講生アンケート集計結果報告

1. 目　的

8 月 2 日（月）・3 日（火）及び 6 日（金）の日程で開催した「第 7 回高校生起業家教育講座」(Zoom 開催）を受講した高校生の本講座に対する評価や意見を調査・把握し、次回以降の本講座の企画・運営に反映することを目的とする。

2. 対象者

「第 7 回高校生起業家教育講座」を受講した高校生（1 年～3 年）

3. 調査期間

2021 年 8 月 19 日（木）～8 月 31 日（火）

4. 調査方法

受講した高校生のメールアドレス宛てにGoogle フォームによるアンケート調査を依頼（無記名方式。メールアドレスのみ記入）

5. 調査サンプル数

受講者数（N）：24 名　アンケート回収者数（n）：12 名　回収率：50.0%

6. 調査結果概要（サマリー）

本講座の受講を希望した理由として、「起業に関心があった」(8 名）が最も多く、「ビジネスアイデアの創出方法などを学びたかった」(6 名）も含めると「起業」に対する意識の高い高校生が本講座の内容に期待して受講し、受講した感想では「期待以上だった」(7 名)「期待どおりだった」(4 名）とする回答が 92%を占め、本講座の内容を高く評価。ビジネスプラン創出方法や大手企業の講義での学びを評価理由に挙げている。

さらに、講座を受講して 8 名（67.0%）が「起業したいという意識が喚起された」としている。

3 日間の日程については、「適切だった」(8 名、69.2%）とする意見が多かったものの、Zoom による 16 時 30 分までの講義時間については「長い」と感じたとする意見が多かった。

希望する本講座の開催形式としては「対面で実際会って活動する」(9 名、76.9%）の比率が高く、その理由として通信環境を意識しなくてすむ、コミュニケーションがとりやすく、ディスカッションしやすいという対面形式の利点を挙げている。

7. 調査対象者詳細

(1)調査対象者（受講生）高校別内訳

	高校名	1 年	2 年	3 年	合計
1	大阪教育大学付属高等学校平野校舎	7			7
2	大阪府立茨木高等学校		1		1
3	大阪府立北野高等学校		1		1
4	大阪府立高津高等学校	2			2
5	大阪府立豊中高等学校能勢分校	1			1
6	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校			2	2

	高校名	1年	2年	3年	合計
7	大阪市立西高等学校			1	1
8	大阪桐蔭高等学校		1		1
9	関西学院千里国際高等部	1	1		2
10	清風南海高等学校	2		1	3
11	帝塚山学院高等学校		1		1
12	明星高等学校		1		1
13	東京韓国学校		1		1
	合　計	13	7	4	24

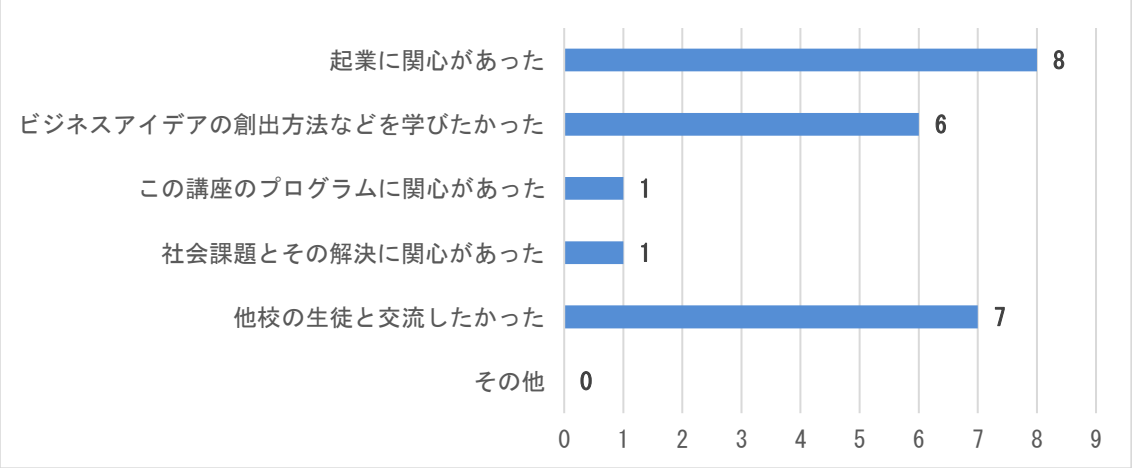
(2)アンケート回収者高校別内訳

	高校名	1年	2年	3年	合計
1	大阪教育大学付属高等学校平野校舎	6			6
3	大阪府立北野高等学校		1		1
4	大阪府立高津高等学校	1			1
5	大阪府立豊中高等学校能勢分校	1			1
6	大阪市立西高等学校			1	1
7	清風南海高等学校	1			1
8	明星高等学校		1		1
	合　計	9	2	1	12

8.　調査結果詳細

問１：「第７回高校生起業家教育講座」に参加しようと思った理由は何ですか（複数回答可）

選択項目	回答数
①起業に関心があった	8
②ビジネスアイデアの創出方法などを学びたかった	6
③この講座のプログラムに関心があった	1
④社会課題とその解決に関心があった	1
⑤他校の生徒と交流したかった	7
⑥その他	0



問１-1：③と回答した方。具体的にどういった点に関心があったか記述してください。

・野村證券など大手企業の方の講義が聞けるから

問１-2：④と回答した方。具体的にどのような社会課題に関心があるのか記述してください。

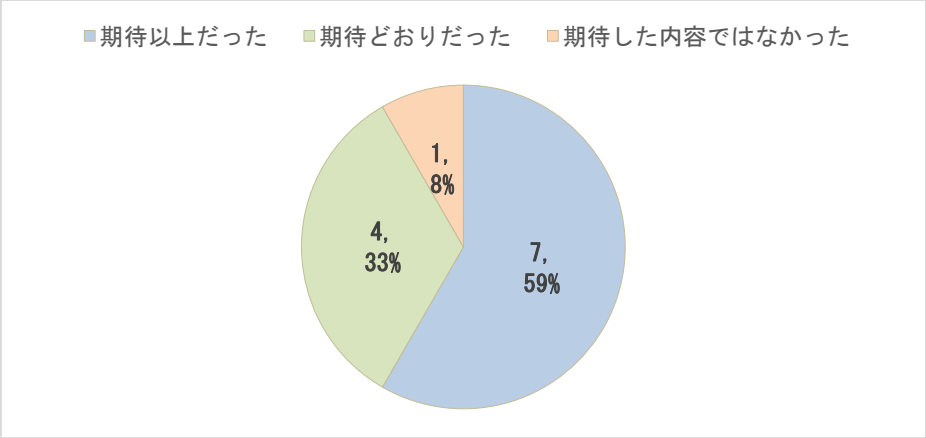
・海洋プラスチック　フードロス

問１-3：⑥と回答した方。その内容を記述してください。

該当なし

問２：第７回高校生起業家教育講座」に参加した感想は。

選択項目	回答数	構成比（%）
①期待以上だった	7	59.0
②期待どおりだった	4	33.0
③期待した内容ではなかった	1	8.0



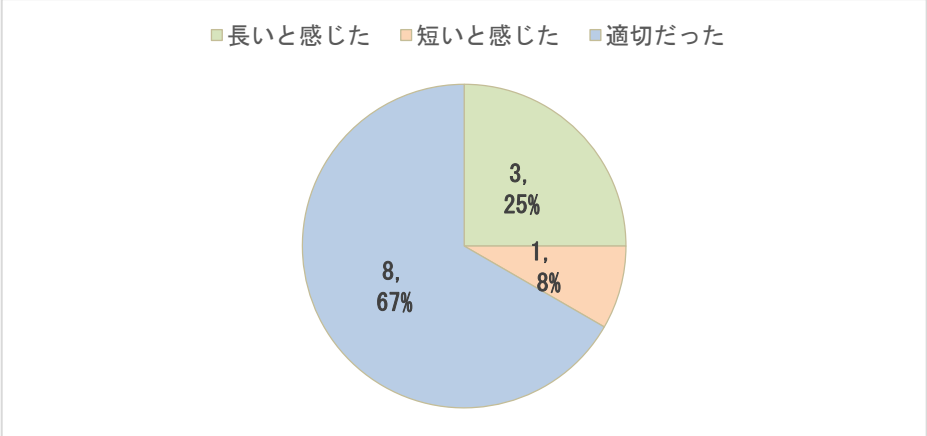
問２-1：そう思った理由を記述してください。

・筋道の立ったビジネスプラン創出の方法を体験しながら学べたから。
・ビジネスプラン創出の方法を学ぶだけでなく、ビジネスに関連する企業や社会について学べたと思ったから。
・初めて知ったことを活用する場があったから。
・この講座以外では経験できないようなことを経験できたから。
・将来の起業の勉強の場であり、高校生の間に起業するための知識は身につかなかったから。
・自分が学びたかったビジネスアイデアの創出方法を実践も交えて、学ぶことが出来たから。

・数日間の間で初対面の人たちとビジネスプランを考えて深められ、とても満足でした！
・講座ではやはり受け身の体制でほとんどお話を聞いているだけになるのではないかと思っていたが、思った以上にグループワークがあり、そこでグループのメンバーと考えを共有し合うことで自分の考えを深めたり、改めたりする事ができたから。
・おおむね期待できた話が聞けたから。
・色々なことを知れたから。

問 3：8 月 2 日（月）3 日（火）6 日（金）の日程（期間）と時間について。

選択項目	回答数	構成比（%）
①長いと感じた	3	25.0
②短いと感じた	1	8.0
③適切だった	8	67.0



問 3-1：そう思った理由を記述してください。

・3 日間は連続であったほうが集中が切れないので、続けてほしい。時間はズームだったため長く感じたのかもしれないが、15:00 台までにしたほうがよかったと感じる。
・各セクションで展開が早いのも良かったが、じっくりテーマを深堀することもしてみたい。
・前半の 2 日分を 3～4 日に分割。
・朝から夕方までとなるとやはり疲れがすごく、終わってからはすぐに寝てしまう 3 日間だったから。朝から午後 2 時位までがいいと思う。
・すこし体力的に疲れてしまったから、もう少し休憩を多くしてほしかった。

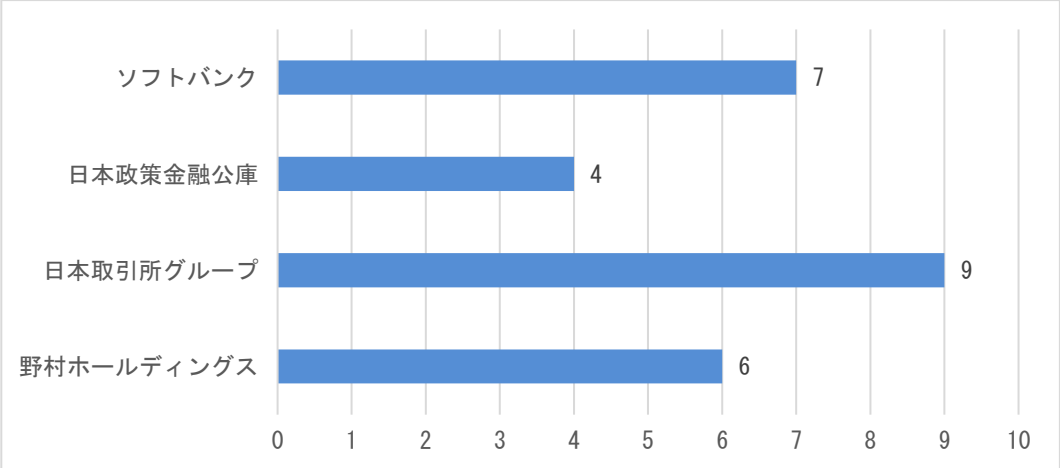
問 4：今回の講座で学んだ中で特に参考になったと思うプログラムや内容について記述してください。

・アイデアの出し方についての内容。
・2×2：自分が物事を考えるときに傾向を見たり、グループ化したりすることを意識したことがなかったから。

・ビジネスアイデアの創出や、市場についてのお話。
・互いに意見交換をたやすく出来るチームづくりについて知れた。
・強制連想法。
・ビジネス案の創出方法，企業の方々からの講義。
・ビジネスプランをこれから考える上でのアイデア創出の仕方や、プレゼンの仕方など企業の方から学んだことです。
・ビジネスの発想の仕方、伝わりやすい(効率の良い)プレゼンテーションの仕方。

問 5：各企業の講義で参考になったのはどれですか（複数回答可）。

選択項目	回答数
①ソフトバンク	7
②日本政策金融公庫	4
③日本取引所グループ（東京証券取引所）	9
④野村ホールディングス	6



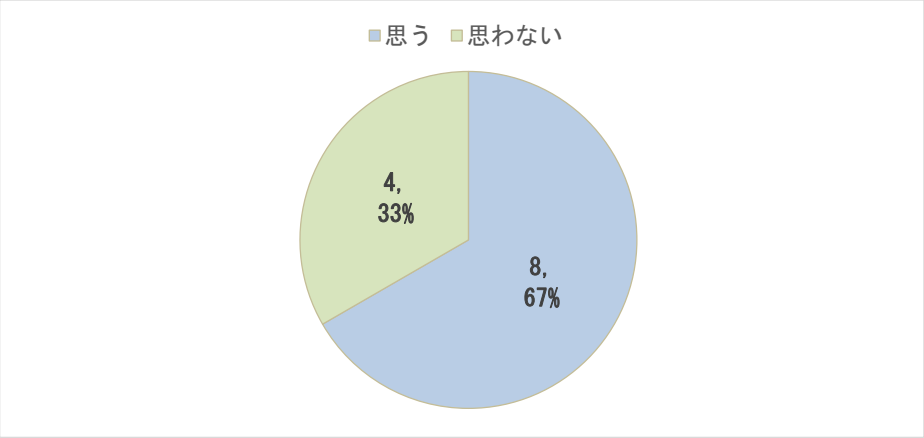
問 5-1：そう思った理由を記述してください。

・プレゼンについては企業で統一しているというのが面白かったし、日本取引所グループは生の声を聞ける貴重な機会だったため。
・自分はスライドを使って表現するのが苦手だったが、自分にもできる形で、スライドが伝わりやすくなる方法を教えていただいたから。
・学校では習わないような内容が多かったため。
・金融、経済の業界に足を置いているからこその知識や情報を多く教えていただいたから。
・経済とお金の知識は若いうちから頭に入れておくべきだと感じたから。
・アイデアの出し方から考えたものを表現する方法、起業の実態まで詳しく教えていただけたから。
・プレゼン方法はビジネスの場も含めて、他に身近で言うと高校の授業での発表にも使えると思い、参考になったから。取引所でのリアルな企業実態を聞けたのも良かった。
・プレゼンの仕方など。

・企業の方々の講義内容はやはり高校生としては難しいテーマのものが多かったな、と感じたが、高校生でも分かるように丁寧に説明してくださったおかげでほとんどが自分で理解、納得できるものだったから。
・特に東証の方の話が面白かった。

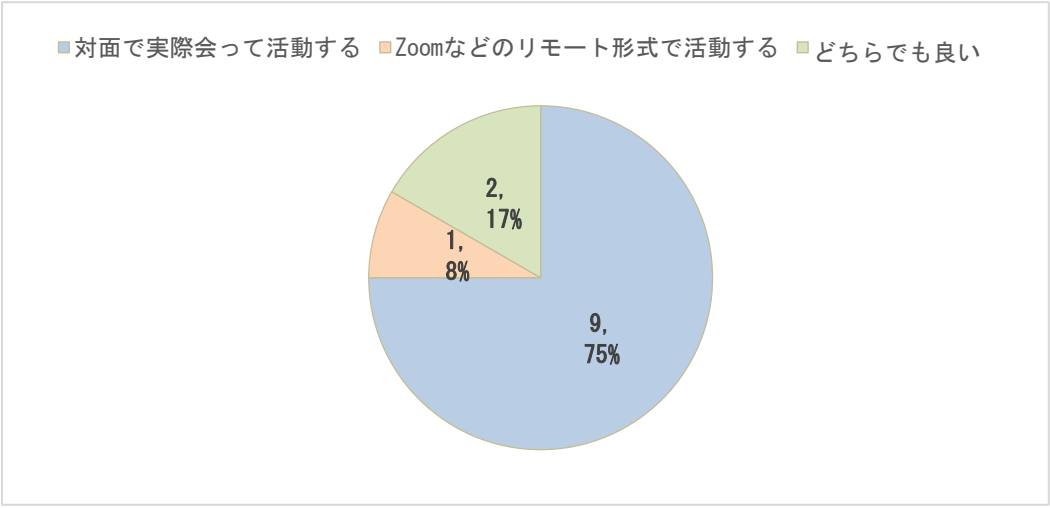
問 6：講座に参加して、将来「起業」したいという意識が喚起されたと思いますか。

選択項目	回答数	構成比（%）
①思う	8	67.0
②特に思わない	4	33.0



問 7：大阪府立大学「高校生起業家教育講座」の活動形式はどちらがいいと思いますか。

選択項目	回答数	構成比（%）
①対面で実際会って活動する	9	75.0
②Zoom などのリモート形式で活動する	1	8.0
③どちらでもよい	2	17.0



問 7-1：そう思った理由を記述してください。

・ズームだと沈黙が辛い。また、良い意味でも悪い意味でも周りの目がないので、対面の方がよい。集中度も全く違う。また、電波などの心配をしなくてもいい。
・通信環境が原因で一部の活動に支障をきたしているメンバーがいた。自分も Zoom が落ちて、参加できないことがあったから。
・リモートの方が、年齢などの気を使いにくいし、思ったことを言いやすいから。
・パソコンは手書きのように直感的操作ができず、また、画面越しだとほかの参加者と距離を感じるため。
・通信が途切れることもなくミュートやカメラの OFF を解除する必要もなくなり、発言しやすくなるから。
・zoom より対面の方がプログラム以外の部分でも話すことが簡単で、グループでの仲が深まると思ったから。
・対面で話した方が対話が円滑に進んでよりいいアイデアが生み出されると思うからです。
・どちらの形式にもメリットはあるし、どちらかでしかできない事もあるので選べないから。
・対面の方がやはりコミュニケーションがよりとりやすい。

問 8：何か意見や感想があれば記述してください。どんなことでも構いません。

・グループのメンバーについてなのでここに書くべきではないかもしれませんが、チームで活動しているにもかかわらず、自分の意見を発表直前に急に無理やり押し倒した人がいたり、話し合い中も話しやすい雰囲気になれなかったりしました。また、 5 人もいて女子が私 1 人で辛かったです。 企業の方のお話は興味深かったです。時間が少なく、焦ってお話しし企業の方のお話は興味深かったです。時間が少なく、焦ってお話ししているように思えたので、もう少し長くても良い気がしました。
・難しかったけど、ためになる内容だったと思った。話の途中で質問とかはしにくいので、質問できる場所を増やすともっと良くなると思った。
・特に印象に残ったのは、柔らかく開放的な雰囲気でした。この自由な空気があったからこそ様々なことをよく考えて、自分や他の人の中にある面白いアイデアや考え方を見つけ出せたと思います。
・起業に興味があっても具体的なところは知らない部分が多かったので、それを知れたことは大きな一歩になったと思います。
・ほぼ日中ずっと講座という形で 3 日間はとても疲れましたが、それだけ長時間でも一切無駄な時間はなく沢山学ぶことが出来ました。有意義な時間をありがとうございます。堅い講座ではなく、リラックスして参加できる講座だったところもすごく良いなと思いました。また、こちらがパソコンでマイクが使えない、というトラブルにもしっかりと対応してくださり本当に助かりました。改めて、本当に素敵な講座をありがとうございます。

9. DAY3：8 月 6 日（金）の全体振り返りにおける受講生の感想

・プログラムがたくさんあって、頭を使ったという印象。学校でもビジネスプランのチームを組んでいるが、DYY１・DAY2 で学んだアイデア出しの方法をチームで説明して役

に立てている。
・楽しかった。他の高校の生徒と話す機会がなかったので、いろいろなパターンの中で皆と正解を探すのが楽しかった。
・プログラムの中で起業について学ぶことができた。メンバーの中から思いつかないアイデアも出てきて参考になった。
・全く知らない人と最初は緊張したが、今回出会った人との奇跡的な出会いを大切にしたい。楽しかった。
・こんなに真剣にチームの中で話し合うのは楽しかったけど、難しかった。学校では体験できないことが体験できた。
・いまはとにかく疲れた。疲れるほど楽しかった。起業には関心はなかったが、そういう選択肢もあることが分かってよかった。
・DAY１・DAY2 のアイデアの出し方が参考になった。高校生ビジネスプラングランプリ（主催：日本政策金融公庫）に申し込むうえで参考になったし、皆が持っている知識が違う点も参考になった。
・人見知りで不安だったが、雰囲気が親しみやすく、講義もディスカッションも面白かった。
・3 日間、高度な知識を学べた。チームワークも実感し、チームワークを深めてひとつのものを考えるのは楽しかった。
・3 日間、楽しかった。大人の話は圧迫感があるが、先生が柔らかな感じでよかった。チームワークもいままで一番しっかりしていた。
・3 日間楽しかった。シャイだけど、チームリーダーのリーダーシップがあって、学べることがあった。
・中学生の頃からビジネスプランについて先生から指導を受けていて、高校のゼミで高校生ビジネスプランコンテストに向けて勉強している。この講座を知って、他の価値観を持った他校の生徒と議論できてアイデアを深められた。いい体験をさせてもらった。
・すごく楽しかったけど、疲れた。他校の生徒と交流できるので開講前から楽しみにしていたが、受講して実際楽しかった。
・楽しかった。ずば抜けた発想の人だけが起業できると思っていたが、ロジカルに考えることでアイデアを創出できることを学んだ。高校生ビジネスプラングランプリにもエントリーしたい。
・学校の先生の紹介で参加した。起業は考えていなかったが、起業を考えている高校生に出会えていい体験になった。
・実践的に学べてよかった。日本取引所グループの森元さんの現場の話がリアルで参考になった。
・楽しかった。いろんな発見があった。自分の弱みも分かったので、この経験を行動に移したい。
・参加した皆がほんとうにすごい！生まれ変われるぐらいの感銘を受けた。日本取引所グループの森元さんの講義は、こういう人達が日本をつくっていると感じた。
・いろんなことを学んだ。ビジネスアイデア創出や他校の生徒との交流の機会からいろんな刺激をもらった。
・いろんな知識を学べた。同じ年代の人達と話して、本当にすごいと思った。語彙力、プレゼン力に刺激をもらった。